

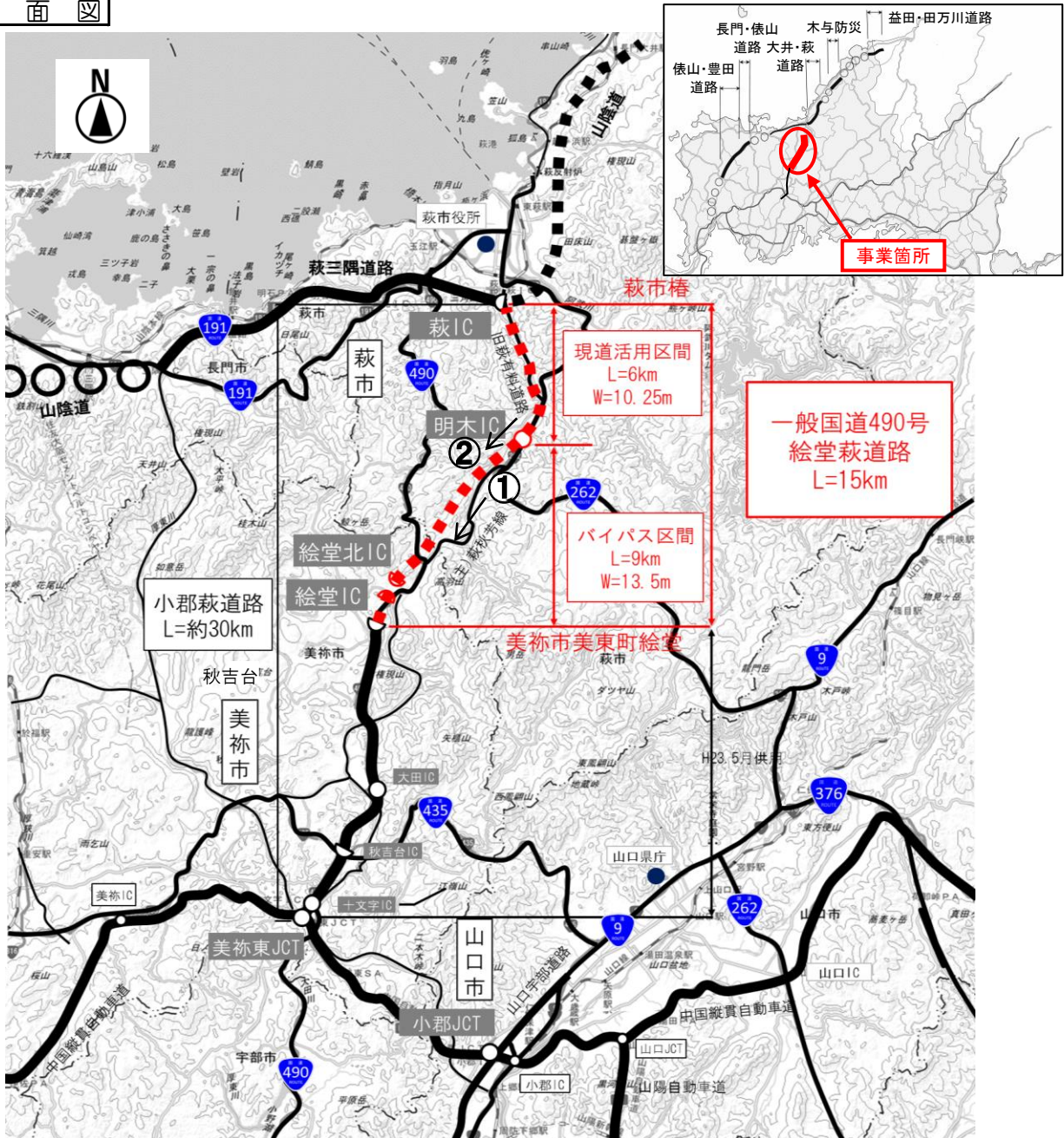
再評価項目調査

再評価実施要件		○事業採択後（ 年）○再評価後（ 年）●その他（ 変化 ）					
1 事業 概要	事業名	一般国道490号 <small>えどうはぎ</small> 給堂萩道路 道路改築事業					
	事業場所	<small>みね</small> 美祢市 <small>みとう</small> 美東町 <small>えどう</small> 給堂 <small>はぎ</small> 萩市 <small>つばき</small> 椿					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《 前回評価 平成 30 年時 》 平成 26 年度 ~ 令和 10 年度 《 令和 6 年度 》 (西暦 2014 年度 ~ 西暦 2028 年度 《 西暦 2024 年度 》)					
	総事業費 (内用地補償費)	《 30,000 百万円 》 39,000 百万円 (558 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	18,924 百万円 (556 百万円)	進捗率 (用地補償費)	49 % (99 %)	
	事業目的	一般国道490号給堂萩道路は、県央の交通拠点である山口市小郡と「秋吉台」等の自然環境や、「萩城下町」等の歴史・文化遺産に恵まれた美祢・萩地域を結び高規格道路である小郡萩道路の一部を構成する延長約15kmの道路であり、当該事業は、既に供用している美祢東JCT～給堂IC間に接続することで、広域交通拠点との連絡強化、県央部と山陰地域との交流促進、観光ネットワークの形成、安全で円滑な交通の確保を図ることを目的として実施するものである。					
	事業内容	○延長 : L=15.0km (バイパス区間9.0km、現道活用区間6.0km) ○幅員 : 【バイパス区間】全幅13.5m (車道3.5×2=7.0m) 【現道活用区間】全幅10.25m (車道3.25×2=6.5m、歩道2.5m(片側)) ○道路区分 : 【バイパス区間】第1種第3級 【現道活用区間】第3種第2級 ○計画交通量 : 11,700~14,400台/日					
事業効果	○萩市役所と山口宇部空港の移動時間が68分から63分になるなど、山陰地域と県央部や山陽地域間の移動時間が5分短縮されるとともに、定時性の確保や走行性の向上により、以下の効果がある。 ・観光客がより多くの観光地を訪れることが可能となり、交流人口の増加が期待できる。 ・地域間の交流が促進される。 ・物流の効率化により産業の活性化が期待できる。 ・3次救急医療機関への搬送時間の短縮により救命率の向上に寄与する。 ○H8道路防災総点検における要対策箇所(6箇所)を回避することにより、安全な交通が確保される。						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>当該道路の沿線地域においては、平成27年に「Mine秋吉台ジオパーク」、平成30年に「萩ジオパーク」が日本ジオパークに認定されたこと等により、観光客が増加している。</p> <p>また、令和2年には「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産登録5周年を迎え、萩城跡御城印が販売開始される等、今後さらなる観光客の増加が見込まれる。</p> <p>さらに、当該道路と一体となって高速道路ネットワークを形成する山陰道の整備が進んでおり、広域交通拠点との連絡強化や観光ネットワークの形成に資する当該道路の必要性は依然として高い。</p> <p>【美祢市観光客数】 ○令和元年：約144万人(平成25年からの増：約8万人) 【萩市観光客数】 ○令和元年：約451万人(平成25年からの増：約23万人) 【山陰道】 ○一般国道491号長門・俵山道路 : 令和元年度に開通 ○一般国道191号木与防災 : 令和2年度に着工 ○一般国道491号俵山・豊田道路 : 令和2年度に着工 ○一般国道191号益田・田万川道路 : 令和3年度に新規事業化 ○一般国道191号大井・萩道路 : 令和3年度に新規事業化</p>				中項目 評価	大項目 評価
	関係市町及び地元の意向	<p>当該道路は、「第二期萩市総合戦略」に整備を促進する道路として位置付けられているとともに、萩・小郡間地域高規格道路整備促進期成同盟会等から早期整備の要望がある。</p> <p>地元住民は事業に協力的である。</p>				中項目 評価	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th colspan="3">今回(再々評価) (基準年：R3)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>前回 (基準年：H30)</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>29,275</td> <td>35,993</td> <td>35,993</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>4,068</td> <td>4,733</td> <td>4,733</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>1,992</td> <td>1,183</td> <td>1,183</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>35,335</td> <td>41,909</td> <td>41,909</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>25,022</td> <td>33,971</td> <td>15,151</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>2,387</td> <td>2,294</td> <td>2,294</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>27,409</td> <td>36,265</td> <td>17,445</td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益比 (B/C)</td> <td>1.3</td> <td>1.2</td> <td>2.4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル(H30.2)」 基準年：H30 平成17年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル(H30.2)」 基準年：R3 平成22年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p>	区分	主な項目	今回(再々評価) (基準年：R3)			備考	前回 (基準年：H30)	全体事業	残事業	便益 (B)	①走行時間短縮便益	29,275	35,993	35,993		②走行経費減少便益	4,068	4,733	4,733		③交通事故減少便益	1,992	1,183	1,183		総便益	35,335	41,909	41,909		費用 (C)	①事業費	25,022	33,971	15,151		②維持管理費	2,387	2,294	2,294		総費用	27,409	36,265	17,445		費用便益比 (B/C)	1.3	1.2	2.4			大項目評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	今回(再々評価) (基準年：R3)			備考																																																		
			前回 (基準年：H30)	全体事業	残事業																																																			
	便益 (B)	①走行時間短縮便益	29,275	35,993	35,993																																																			
②走行経費減少便益		4,068	4,733	4,733																																																				
③交通事故減少便益		1,992	1,183	1,183																																																				
総便益		35,335	41,909	41,909																																																				
費用 (C)	①事業費	25,022	33,971	15,151																																																				
	②維持管理費	2,387	2,294	2,294																																																				
	総費用	27,409	36,265	17,445																																																				
費用便益比 (B/C)	1.3	1.2	2.4																																																					
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>用地補償が概ね完了しており、引き続き計画的に整備を進める。</p> <p>【事業費の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無</p> <p>事業費の増は、トンネル掘削時の安全対策の追加や支保パターンの変更、地質状況の変化への対応及び既設道路の機能確保等、消費税率の変更による。</p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無</p> <p>所有者不明用地の買収手続きに時間を要したことや上記の増工により、事業期間を令和10年度まで延伸する。</p>	大項目評価 A ・ B ・ C																																																					
(4) 代替案等の可能性	コスト削減	盛土材の事業間流用、工事用道路の見直しによりコスト削減を図っている。	中項目評価 a・b 大項目評価 A ・ B ・ C																																																					
代替案	代替案	利便性、経済性、施工性を総合的に勘案し、最適な計画を選定しているため、計画どおり進めることが妥当と考える。	中項目評価 a・b 大項目評価 C																																																					
3 環境	配慮事項	<p>環境影響評価法や条例の対象外であるが、猛禽類や植物の環境監視計画を策定し遵守している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 猛禽類調査や植物調査に基づき、自然環境に配慮した施工を行う。 住居が近接している箇所においては、騒音対策として、防音シートを使用する。 濁水の対策として、沈砂池や濁水処理設備等を設置する。 等 																																																						
4 対応方針	(事業実施主体案)	<p>総合評価 ● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p> <p>評価理由 事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。</p> <p>備考</p>																																																						

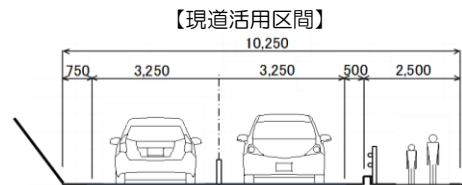
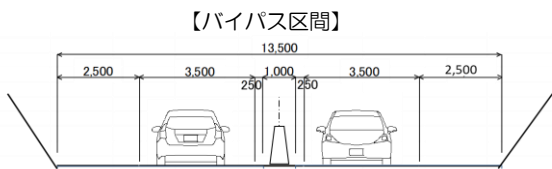
えどうはぎどうろ
一般国道490号 絵堂萩道路

平面図



標準断面図

※この地図は、国土地理院地図（電子国土Web）の一部を掲載したものである。



写真

①整備状況



②整備状況

